



木村芳文写真集  
**白山花模様**

FLOWERS of HAKUSAN Yoshifumi Kimura

木村芳文写真集  
白山花模様





モミジカラマツ

2



リュウ0キンカ

3



コバイケイソウ（若葉）

4



ミヤマクワガタ

5



ミズバショウ

6



オオサクラソウ

7



ミヤマシシウド

12



ハクサンチドリ

13



オントデ



ヨツバシオガマ

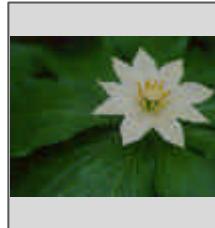


ハクサンコザクラ

## 撮影ノート

ここでは、花が好きな登山者の立場で解説を行います。従つて、萼片を花びらと表記するなど、植物学的な立場からは不適当な記述がありますことを、お断りしておきます。

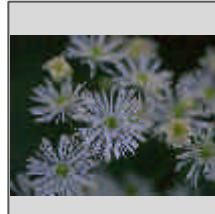
生育地や花期は、別当出合から山頂を目指す場合に、花を見つけるヒントとなるよう解説しました。



### 1 キヌガサソウ

衣笠草 *Kinugasaso*

ナナカマドの下などの湿った日陰に咲く。かなり大きくなるが、清楚さを感じる。注意してみると、葉と花びらの数が、いつも同じことに気が付く。



### 2 モミジカラマツ

紅葉唐松 *Momijikaramatsu*

草むらに白い線香花火のような印象で咲いている。よく似たカラマツソウとは、葉がモミジに似ていることで区別できる。弥陀ヶ原より低い高度で見つかる。



### 3 リュウキンカ

立金花 *Ryukinka*

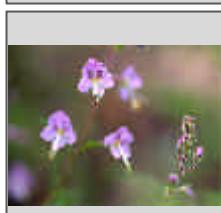
黒ボコ岩下の砂防新道では、小沢を横切る所で早期に見つかる。冷たい水しぶきを浴びるようなところで、群生している。



### 4 コバイケイソウ (若葉)

子梅蕙草 *Kobaikeso (fresh leaves)*

雪解けと同時に芽吹く。最初は、固い葉巻型をしているが、しだいにほぐれ、ふくよかな若葉を展開する。そして夏には白い花を咲かせる。



### 5 ミヤマクワガタ

深山鉢形 *Miyamakuwagata*

気をつけていないと見過ごしてしまうほど小さな花であるが、精緻な模様が美しい。早期に、観光新道の上部や展望コースの礫地で見つかる。



### 6 ミズバショウ

水芭蕉 *Mizubasho*

取立山や鳴谷山、白山駒込岳付近で見られる。5月頃から咲きはじめるが、標高の高い白山駒込岳では夏に咲く。寒いためか、花の大きさが通常の半分位になってしまう。



### 7 オオサクラソウ

大桜草 *Osakuraso*

濃いピンクの花を付ける。白山で見つかるのは、駒込新道の一部だけで、花期も梅雨時なので、めぐり会うのは難しい。

## あとがき

長く白山を撮ってきました。ところが、白山の花に目を向けはじめたのはほんの数年前からです。今までの撮影では、未知や困難、大きな風景に向かって、ただがむしゃらにぶつかつていったような気がします。そのおかげで、厳冬期や渓谷の困難な撮影をこなすことができました。しかし、数年前から、少し別のスタンスで白山と対峙したら、新しい表現ができるのではないかという気持ちが強くなってきました。

この写真集は、今まで気になっても後回しにしていた、足下の花をテーマにしています。私なりに、新しい表現を試みようとした結果です。

高山植物は厳しい自然環境に耐えて花開くと言われています。冬は雪に埋もれ、夏でも低温で日照時間が短く、1年で数ミリしか成長できないのです。しかし、高山植物自身は案外快適に思っているのかもしれません。「厳しい」というのは、人間が自分の尺度に当てはめた勝手な感覚だと私は思います。

ところで、白山は中部山岳から孤立した高山で、その高山帯も主峰を中心とした狭い地域に限定されています。そして、2702mという高山帯としては下限の標高。また、これより西には高山と呼べる山域はありません。そのためか、白山を南限または西限とする高山植物が100種を超えると言われています。加えて最近の暖冬傾向があります。「花の白山」と呼ばれますが、そこで咲く花は、高山植物にとってはぎりぎりの環境に耐えています。

高山としては標高、緯度とも低いためでしょうか、白山の花

は比較的早期に咲きます。そしてその時期は梅雨と重なるため、白山の花は雨に打たれながら開きます。雨に打たれると花は痛みます。チングルマや、イワギキョウなどは花弁が裂けることもあります。傷だらけになって咲いている花を見ると、よくがんばって咲いてくれたなあと思います。

傷ついた花に罪はありませんが、写真の題材としてはいろいろと不都合があります。写真にしてじっくり見ると、花弁のわずかな傷があらくなっています。被写体を探すときには、傷一つない美人花を探さなくてはいけません。はいつくばって、虫眼鏡で見るくらいの気持ちが必要です。

人間に例えると、少々あばたのある女性でも愛情があれば美しく見えるものですが、モデルになるには、ある意味で人間離れした美しさが必要になります。花も同じことが言えます。ただし、いつしか、花の傷つき耐えて咲く美しさを、ありのまま表現したいと考えています。

巻末には作品ごとに解説をつけ、花を探すヒントになる事柄も書きました。この解説も収録した作品も主観的に花をとらえたものなので、実用性は図鑑には及びませんが、図鑑より楽しく利用してもらえるのではないかと思います。

花の実物と私の作品と比べると、その違いに驚かれるかもしれません。しかし、これらの作品は、私の思いを、私が見たものをそのまま写すことで表現しようとしたものです。ご意見、ご感想など頂けたら幸いです。

2002年6月

木村芳文

## Photographer's note

Over the years I have made many trips to Hakusan but have never really noticed the mountain's flowers. My subject was always panoramic views of a landscape so beautiful that I thought nothing of the difficulties of climbing in snow and rain.

However, a few years ago, I began to see another face of Hakusan. In search of a new way of presenting Hakusan in my photography, I took as the subject for my present book the flowers I had always known were there but had never really appreciated. This was my challenge in search of a new representation of Hakusan.

It is said that alpine flowers thrive best under the most severe conditions. These tiny flowers buried under the deep snow in winter can grow only a few millimeters in summer when the temperature is still low and the hours of sunlight are short. I believe that what human beings call 'severe' weather is in fact not so severe for alpine flowers.

Hakusan is isolated from Japan Alps, so its alpine belt is limited to the area near the summit. Its altitude of 2702m is at the lower limit of the alpine belt, and

Hakusan is positioned at the west end of the high mountain

area. Hakusan is called a "mountain of flowers", but the flowers here are not exempt from the influence of global warming. They are struggling to survive.

Hakusan's flowering season is relatively early probably because of its lower altitude and latitude for a high mountain. Rainfall is high, so flowers are exposed to rain when they are in bloom. The petals of Chinguruma and Iwagikyo sometimes tear because of the heavy rain. So when I look at the damaged blooming flowers. I do nothing except admire them. It is not their fault, but damaged flowers are not very photographic. A tiny scratch on a petal can ruin a whole photograph. I am often crawling on the ground looking through a magnifying glass for 'Ms Perfect'. Love blinds a man to all imperfections, but a human model needs to have some distinct beauty. The same can be said for flowers. Some day I hope to capture the beauty of damaged flowers in bloom as they are.

The flowers may seem different in these photographs showing how I felt and how I saw when I found each flower.

June, 2002

Yoshifumi Kimura